

## 移転する八幡浜医師会館に近接ヘリポートを

越智元郎

八幡浜医師会館(新館)は昭和53年に建築された、いわゆる改正建築法の旧耐震基準に沿った建物(千丈川沿いに立地)である。敷地の標高は海拔2.1m、八幡浜湾から約1000mの距離にある。今後襲来する可能性のある南海トラフ巨大地震で医師会館は倒壊し、さらに地震から80分余りで海拔7mを超える大津波に襲われることになる。

八幡浜医師会は2014年2月、八幡浜市および伊方町と災害時の協力体制についての協定を結んだ。これは県内でも例のない先進的なもので、現在も高く評価されている。医師会は協定に基づき、両市町に設置された7カ所の救護所に医師などを派遣するが、その最も重要なものが、医師会の臨時の本部を兼ねる保健センターの救護所である。保健センターは当該地震の揺れに耐えるとみられるが、その足下まで津波が来る可能性があること、医師会本部や救護所を予定される4階で運営するには、停電によるエレベーター停止が懸念される。

医師会では会館の建て替え移転について、正式な方針を打ち出したという。移転地の候補として、津波浸水のない場所が候補となるが、私は医師会敷地に近接して市町が、大型ヘリを離着陸できるヘリポートを設置することを求めたい。これによって、小型ヘリが離着陸できる市立八幡浜総合病院の屋上ヘリに加えて、被災地外との太いアクセスラインを確保することができる。以上のような観点から医師会館建築場所の選定をお願いしたい。